
~彼がくれたもの~

リンカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「彼がくれたもの」

【著者名】

リンク

N4227C

【あらすじ】

あたしわ彼に出逢つて、大切な物をもらつた。いや貰つたというより、くれたんだ。そうそれわあたしだつた・・・

プロローグ

あたしわ、彼に出会つて変わったんだ・・・

彼に出会つたこの瞬間から、変わったんだ・・・

彼がくれた物・・・

彼が、わたしにくれたもの・・・

そうそれは、本当の

あたしだつたんだ・・・それわ、今まで生きてきた中で、あたしに
残る一生大で、一生守つていかなきやいけない物・・・

それが・・・

彼があたしにくれた物・・・

第2ワ（前書き）

なし

第2ワ

ねえ～？？今君が生きてたら、どんな顔するかな～？？

笑ってくれる？？

微笑んでくれる？？

それとも・・・

あたしわ、今どんな

顔してるの？？

ふと、自分の部屋の

鏡を見た・・・

あたしわ、今す～い

顔だつた・・・

そう。こんな顔みたら

優わ引くヨネ・・・

ねえ？そこにはいるんでしょう？？

優？？なんで見えないの？？

あたしわ ロロロに る。

今すぐ。向かえに 来てヨ。

ねえ。

優・・・優わいきなり 転校して きた・・・

まず、いつもどおり

教室にむかう あたしたち4人わ、いつも

遅刻、ギリギリに 来て いた。

この日も、朝のチャイムと共に、

教室のドアを開いて、

あたしたちわ、入った・・・・・

この日が、あたしの

13年の人生の中で、

一番の日となる事も

知らずに・・・・

いつもの朝・・・

変わらぬ先生・・・

クラスの生徒・・・

いつもと何も変わらない、月曜日の朝。

その日わ、今から1週間という、

やるせない気持ちと、

よおしゃるか！――

の気持ちのいいまじつた、空氣の中、

担任の先生の言葉で

ふいんきが、変わつた

「今日わ、
皆さん」

新しく仲間を紹介します

ガラガラ・・・

「東京から引つ越してきました。

山崎・優 デス。

これから、宜しくお願ひします！――

この人わかなりの美形・・・・・・・

(結構、モテルだ口なあ。)

そうおもいながら、

彼を見ていた・・・

「うやあ山崎君わ、

山川さんの隣に座つて・・・」

えツ・・・

あたしつ

まぢ? ?

さつきのイケメンボーイが、あたしの

隣・・・・・・

「宜しく・・・俺、優

「あつー! 宜しく。

あたしモモ” ”

あたし等わすぐうちとけた。。

まるで、小さい頃かた、知つてゐるかのよおに・・・・優わいきなり
転校してきた・・・・

まず、いつもどおり

教室にむかうあたしたち4人わ、いつも

遅刻ギリギリに来ていた。

この日も、朝のチャイムと共に、

教室のドアを開いて、

あたしたちわ、入った・・・・・

この日が、あたしの

13年の人生の中で、

一番の日となる事も

知らずに・・・

いつもの朝・・・

変わらぬ先生・・・

クラスの生徒・・・

いつもと同じで、月曜日の朝。

その日も、今から1週間という、

やるせない気持ちと、

よおしゃるか！――！

の気持ちのままじつた、空氣の中、

担任の先生の言葉で

ふいんきが、変わった

「今日わ、皆さんに」

新しく仲間を紹介します」

ガラガラ・・・

「東京から引っ越してきました。」

山崎・優 デス。

これから、宜しくお願ひします！――！」

この人わかなりの美形・・・・・・・

（結構、モテルだ口なあ。）

そうおもいながら、

彼を見ていた・・・

「ぢやあ山崎君わ、

山川さんの隣に座つて・・・」

えツ
・
・

あたしツ

۱۷۰

さつきのイケメンボーイが、あたしの

隣
•
•
•
•
•
•
•

「宜しく。俺、優」

「あつ！ 宜しく。

あたしモモ
”
”
「

あたし等わすぐうちとけた。。

まるで、小さい頃かた、知つていたかのよおに・・・・優わいきなり転校してきた・・・・

まず、いつもどおり

教室にむかうあたしたち4人わ、いつも

遅刻ギリギリに来ていた。

この日も、朝のチャイムと共に、

教室のドアを開いて、

あたしたちわ、入った・・・・・

この日が、あたしの

13年の人生の中で、

一番の日となる事も

知らずに・・・・・

いつもの朝・・・

変わらぬ先生・・・

クラスの生徒・・・

いつもと同じで変わらない、月曜日の朝。

その日、今から一週間という、

やるせなに気持ちとい、

よかしあるか！――

の気持ちのこじまじつた、学校の中、

担任の先生の言葉で

ふいんきが、変わった

「今日わ、顔やこと

新しく仲間を紹介します」

ガラガラ・・・

「東京から引っ越してきました。

山崎・優 デス。

これから、宜しくお願ひします！－！」

この人わかなりの美形・・・・・・

（結構、モテルだ口なあ。）

そうおもいながら、

彼を見ていた・・・

「ぢやあ山崎君わ、

山川さんの隣に座つて・・・・

えツ
・
・

あたしツ

મેનુ?

さつきのイケメンボーリーが、あたしの

•
•
•
•
•
•
•

宣しく・・俺、優

- あゝ宣べ

あたしモモ””」

あたし等わすぐうちとけた。。

まるで、小さい頃から、知っていたかのよおに・・・・あたしわ、もともと

夜の顔と、朝の顔を

持つてた
・
・
・
・

でも、それわ4人

以外誰も知らない。

でも、違つてた。

もう1人あたしの

正体を知ってるヤツが、いた。

そうそれわ今朝、

転校してきたばかりの、

優だつた・・・。その事を知つたのは、

そいつから、メールが来た。

授業中隣の席なのに、

メールして來た・・・。

内容わ・・・。

(今日わ、何処イクン???)

つて・・・

わけが、分からず、聞いた。

(何がノ?)

するとすぐ返事が来た。

(だから、今日ワ

バイクで何処イクン???)

・・・・と・・・・

あたしわ、一瞬、

空を飛んだ。

高く高く。

でも、それわ僅か

一秒ぐらい。

すぐに、地獄におちた氣分・・・・・。

目の前が、真っ暗に

なつたのが、分かつた。

(なんで・・・・・しつ・・・・・てる・・・・の?・?・?)

そう聞くのが、精一杯で・・・・・

そうすると。

そんな事みんな、

知ってるンぢやない?

えツ

でも、それわない事

が分かつたので、

ホツとした

・・・・・

ぢぢなくて、なんで

山崎・優わ

あたし等の事を知つてたのか・・・・

すると、教えてくれた・・・。

時ワ昨日・・・。

山崎わ、その辺を、

ぶらぶらじてた。

すると、「ンンベー」の辺から、聞こえる

異様な声に、耳を

澄ませた……。

あたしの声だつたらしい……。

ある一部始終……。

・・・キヤハハハ。

塚、次何処イク？

サツでも、いじる？？

・・キヤハハハ

まぢ？？サツイチロ””

あいつ等、調子のつてつか、

うざくて、

しょづがねえしなあ。

よつしや „ „ いくか。

ブルーン。 。。

バイクが来た・・。

山崎わ急いで、

隠れたらしい。

そして、うち等が

行つた後、逃げるよつて、帰つたと・・・

なし

なし

第3ワード付き会話

・・・つて訳！！

分かつた??

・・・・・。

あたしわ、何も

いえなかつた・・・

つというより、

ゆえなかつた・・・

あたしわ、こんなに

弱かつた????

ううん。

あたしわ、ヨワクなんか、ない。

ヨイツが、変な所を、

みただけ・・・。

そう、思ひたかつた・・・。

でも、コイツわ

追いつきを纏ひけるよつじ、
元ひづき

あたしに、いった・。

この事を、学校に

ばりせば、ドオなると

思う？？

アヒツわ、ニヤ付きながら、あたしに、

いった・・・。

あたしわ、

何も・・・

いえなかつた・・・

「ちよつと。バラしたら、ゆるさないカラ・・・。絶対！！」

こいつわ、嫌な奴だ

忘れよつ。。

その時は、まだ

キズかなかつた。

こんな奴が、

あたしの・・・

一生忘れられない

彼氏。そのものに

なる」とい・・・

あたしわ、知るよしも、

なかつた・・・キーンコーン
カーンコーン

その日は、

あたしにとつて、

変わった一日となつた。

「なあ。俺の事、

優。 つて呼んでなあ

「はあ？？いきなり何！？」

「頼む！…俺、山川の事、モモって、呼びたいんだ。

「ええけど…。

バラしたら、ドオなるか、

わかつてゐよね？？

「うやあ、あたしガエルから…。
バイバイ…。」

「まで……よ」

「何？」

「バラさねえ。」

バラさねえカラ、

俺と……

俺と。

付き合ねえよ。」

「何いってんの??

「冗談でしょッ。」

あたしわ、今まで

彼氏なんか、作った事、ないのーー！」

「だから、俺が

お前の一番初めの

彼氏になつてやるよ

「なんで、そこまで、

あたしを、彼女にしたいの？？

ただ、バラしたいなら、

バラせば、いいぢやん。

なのに・・

「なのにって、なんだよ。

別に、好きな女の

ために、守つてやりたいがために、

彼女にしちゃダメなんか。

俺わ、お前の事が

好きだ・・。

だから、お前の彼氏になりたい。

お前にもう、淋しい

思いわ、してほしく、

ないんだ。

全部、知ってるんだ。

お前の事・・・全部。」

「なんで、泣いてるの？？

あたしの家庭状況

なんて、優にわ

関係ないでしょ？？

「なんで？さやあ聞くヨ。」

「あるよ。大アリなんだよーーー。」

優と付き合つて

なんか、イイ事

あるの??.

「ある。」

「何があるの??.

「俺と一緒に、イル事が、

幸せになれるように、

俺ワ頑張るー!..

「何いってんの??.

このクラスにわ、

あたしょりも、

可愛くて、ヤンキー

がなくて、

頭よくて・・・

そんなコ一杯いるぢやん。

あたしにわ、優わ

つつ合わない四・・・」

「俺ワ、そんな出来る奴等にわ、

興味ねえ!!」

「ちやああたしみたいな、

出来ない」が、好きなの?」

「モモわ出来ない」
びやあ

ねえだろ!!

試しに、1ヶ月。

1ヶ月だけでいい。

「俺と付き合つてみないか??」

(あたしの事、じんなに、見てて

くれてたんだ。

ただ、隣の席つてだけで、

ここまで、見てて

くれてたんだね。

ありがとう。

貴方なら、大丈夫な、

キがする。

そう思い、

あたしわ、

付き合つて

見る事にした。

これが、あたしに
とつて、

よかつたのか、

わるかつたのか、

分からぬ。・・・。

「イイヨ・・・・。」

「えつ？？」

「1ヶ月、優と、

付を合つてゐる。「

「アリガトウ。

まう。嬉しこよーー！」

「ぢやあ。また、明日ね。」

「オウ
”
” 明日なーー！」

第3つ～付き合ひつ～（後書き）

なし

夜の世界と、朝の世界（前書き）

なし

夜の世界と、朝の世界

(優。 なんで、あなたわ、優しいの？？)

なんで優わ、いつも、

笑顔なの？？

そう、聞いてみた・。()

イヤ。

聞いてみたかつたんだ。

でも、なぜか、

きこひやいけないキがした。

なんでだろう？？

体ワ凄く答えを、

聞きたがってる。

でも、なぜか、

心の何処か、遠い場所で、

” ”ダメ” ”

つて、いってる

気がした・・・。あの日から、丁度

1ヶ月。

実際この1ヶ月わ

凄く楽しかった!!

もう、モモの気持ちワ、

決まっていた。

勿論、OKの

はずだった!!!!

「モモ。俺が、今から、丁度1ヶ月前

この場所で言った事、

覚えてるか??」

「うん。覚えてるよ。」

「そつか。よかつた。」

「うん。答えをゆう前に、

もう一度、呑み込んで下さ。」

「モモ

俺と、付き合つてくれないか???

「イイヨ。優

”

”

だあい、好き！！」

そういうゆめを、見た・・・・。

何故かないてた・・

あたしわ、時計をみた。

8：10分

8：10分・・・

8：10分！――――！

ヤバイ・・・・

完全遅刻だあ！――――！

まぢやばいと思い、

急いで用意！――

でも、結局ついたのわ、

8・45分だつた・・・・・

その後、先生にしかられ、

ただ、ボウーーー

つとする授業わ

終わつた・・。

あたしわ、あの日と同じじょうに

教室に残つていた。

夢と同じだ・・・

今朝みた幸せな、

戀 ハじへ

恋 ハじへ?

イヤ・・・。

恋 ハじへやあない、

あの姫 ヒメえり、

間違つてゐるんだ。

あたしわ、普通に

恋愛 ハじへたりでゐる

がやない。

そんな、可愛 ハい

普通の「さうやない。

あたしわ、ヨルの

世界に生まれ、

夜の 世界に、育てられた、

心も体も、黒に

染まつた悪い口

”

”

こんな朝の世界に、

生まれ、朝の世界に

育てられた、優とわ

まるで別人。

・・・優・・・

ゴメンなさい・・。

あたしわ、 優とわ

付き合えない・・。

あなたが、夜の世界の

人なら、話わ

違つた・・・。

でも、こんなイイ人

夜にわいない。

優??

ゴメンネ・・・。

あたし、優とワ・・・/

付き合えない・・・

「メンなさい。

夜の世界と、朝の世界（後書き）

なし

第5話（前書き）

なし

第5話

「そんなの関係ないぢやん。」

朝も、夜も一緒に

「違う。違うよ優。」

あなたわあたしの、

本当の姿を知らない。」

あたしわ、優と付き合えるよひな

「ぢやない。」

「なんでだよ（）（怒

なんで、そう決めつけんダ!!...」

「実際、付き合って

優といふと、凄く

楽しかつた。」

でも、あたしわ

夜の世界しか、知らないの。

だから、朝の、光の世界で生まれ育った
優とわあわないんだよ。

ゴメン。1ヶ月前の

何もなかつた、

あたしたちに、

戻ろ??』

「いやだ。

別れるのワ、分かつた。

でも、なんで、夜と
朝ぢやあ

付き合えないんだ??

その理由を、

ゆつてから、

別れるよ。」「

「わかつた。」「長くなるけど、

きいてね。」「

「ああ。」「

「あたしわ、元々

捨て子だった。

その頃あたしわ、

1才で、まだ何も

外の世界を知らなかつた。

でも、あたしわ

その日、あたしを

捨ててくれた、

優しい人に憧れて

すぐなついて、

毎日が、楽しかった。

でも、ある時

あたしわ泣われた・・・。

ここが何処かも、

分からぬ。

この人たちも、誰なのか
わからぬ。

それに、まだ1才の

あたしにわ、事情を

把握する事も

何をする事も、

わからないでいた。

あたしわ、泣き続けた。

それしか、恐怖を

退ける事ワできなかつた。

もとの、お母さんの所に

返して…！

そうゆう思いで、

ただひたすら泣いてた。

すると、1人の男が

あたしにいったの。

「お前、一生。死ぬまで、

もとの親の所にワ

帰れないゼ” ”

つて。

そしてあたしわ

そいつらを恨んだ。

そして、あたしわ

そいつらの下で、

育つた。あたしにわ

悪達しか、できなくて、

なにをしても、

怒られなかつた。

万引きをしても、

人を殺しても、

なにをしても、

怒られなかつた。

あたしわ、怒つて

ほしかつた。

殴つて、怒鳴つてほしかつたの。

でも、そいつらわ

何も怒つてくれなかつた。

なし

なし

そういう世界の中で、

生きてきた・・・。

まず、怒られる事を

知らないあたしわ

散々悪い事を、

しつづけた。

「優にワ、分からなによ。

こんな状況で

育つて来たあたしわ

どれだけ、苦しくて

惨めで・・・・・

だから、こんなあたしとわ、

優 わつわつ合わない。

分かつたでしょ??

ねえ? 優?

聞いてる??

ねえ! ! 聞いてるの???

優わ後ろを向いたまま・・・・・

「・・・グス・・

グズ・・・グス

「 えつ?

「優? 泣いてるの??

「お・前。 辛かったなあ。 苦しかったなあ。

俺、お前の気持ち

少し分かつたよ。

でも、自分が悪いンぢや、ねえぢやん。

なあ。モモわイイコ

ダヨ。俺わモモを

認める。胸張つて、

『モモわ、悪い口なんかやない。』

卷之二

そういつて、優わ

あたしを抱き締めて

くれた。

あたしわ優に、抱き締められたまま、

泣き続けた
・
・
・

でも、一つあの時に

流した涙ぢやあ

ない事に気付いた。

その時、あたしわ

核心した。

何で、今まで

誰にも話せなかつた

事を、約1ヶ月前に

転校してきた、優に

なんの恐怖もなく

話せたんだろ？？？

でも、答えワ

出てた・・・・・

優わぢやんと、

あたしの事見てて

くれてたから。彼の、寝で泣きながら、

あたしの心の中わ、

晴れていた。

そこわまるで、

ずっと暗かつた

あたしの心、

優が太陽をくれたよ に・・・・。

ほんの少ない時間だったケド。

優ワ、閉ざしたあたしの

心に太陽をくれたんだよ。

優の懷わあたしの
居場所なんだ!!

なし

闇人（前書き）

なし

そんなこんなで、

あたしと優わ付き合い始めた・・・・。

自然と溢れる笑顔！

優わ、いつも笑ってるね##

優がいたから、

あたしわココまで

来れたよ！！

ホントにアリガト！

「また、明日ね優～

家に入ろうとした。

その時。

ゴンツツツ

鈍い音がした。

何！？

痛い！！

頭が

助けて
・
・
・
・

優

優

ひたすらに叫んだ。

遠のく意識の中で。

痛いよ
・
・
・

痛い！！

痛い！頭が…

あたし、このまま

しんぢやうの力ナ?

誰？あたしをやつたのわ誰？

意識をうしなつた・・・・

「うツ
ウウツ
」

「おい！ 気が付いたぜ。」

「何!? 誰あんた達! !

「うるせー女だ。

「アーティストが」

あたしわ

この時確信した。

これわ
・・・
/ /

レイプだ。

「せーせーせーせー

触らないで
”

あたしに、触らないでよ。あつちこつて

んツ
”
”

いざな～～～

あたしわ、レイプされた・・・。

ココ何処??

また、あの時に

戻ったの??

いや。死にたい・・・

もう、死にたいヨ・・・

あたし、もう優の所にわ・・・

帰れない・・・

もう、優のいる明るい場所にわ・・・

もどれない。

優
・
・
・
・

ゴメン。

あたし、今回わ

何もしてないよ。

きつと、罰があたつたんだね。

優に太陽をもらつたから、

あたしわ、闇に住む人

なのに。

無理に光の差す方に

行ひつとしたから、

あひとい、

罰があたつたんだね。

やつぱり、永遠なんて

ないんだね。

アの時、教室でないた時、

あたしわ、優。あなたといふ事が、永遠に

感じた・・・・・。

でも、やつぱりないんだ。

優?ココ何処??

怖いよ。・・・・・

あたし、怖いよ。・・・

優の力借りちゃ、ダメなの???

お願い。

助けて。優(

閻人（後書き）

なし

織られたる事……（前書き）

なし

愛される事！！

あたしわ遠のく意識の中、

必死に叫んだ。

ただ、助けてほしかった。

優。

「ゆ・・・う・・た・・すけ・・て

「ゆ・・・うたす・・けて

「ゆう・・たすけ・・て

「ゆう・・・

「モモ?・?

「えつ?・?

なんとか振向くと、

優がそこにいた。。。

「おい！…しつかりしろ！…モモッ

どした？

なにがあつたん？？

話してみ？？

「優。

あんね・・・/

あたしね・・・・

汚れちゃった。

優と別れてすぐに、

家に入ろうとしたの。

でも、いきなり後ろから、なぐられて・・・

氣イ失つてたら、

知らない車の中で

一瞬あの時に、

戻つたのかと思った。

でも、車の中わ現実で、

あたしわ必死に抵抗した。

でも、男達あいてにわ

モモの力なんて

通用しなかった。

あたし・・・

汚れちゃつたわ。

優?
?

ゴメン。ホントゴメン。

もうあたしわ、

優の所に帰れない。

助けてくれて、

アリガトね。」「

「帰つてこいよ。

モモー！また、こいつちこいよ
” ”

俺ワモモが、やられたからつて、

振つたりいねえよ。

突き放したりしねえよ！！

モモわモモだ
” ”

モモわおれのだ。

モモ。帰つてこいよ。

頼む。俺わモモがいなきや、

ダメなんだ。

お願ひだ、頼む。

戻つてきてくれ” ”

「いいの？？」

「ああ。何があつても・・・」

「うん」

「守つてアゲられなくて、『メンタ』

「いいよ。」

優～？？

あなたわざおして、

そこまで優しいの～？

なんで、同じ人なのに、

「「「もで、心がひろいの？？」

あたしわふと、疑問に思つた。

でも、またすぐ、答えがでるんだ。

優が、あたしの事を

凄く、

凄く

大切にしてくれて

あたしのことに

一緒に向き合つてくれて

だから、最後にワ

優とモモ。両方が

笑顔になるんだね！！

あたしわ、この時

人に愛される事が

どれだけ幸せか、分かつた気がした。

イヤ。詳しく優から、教えてもらつたヨオ

愛される事……（後書き）

なし

ない

帰る？

「さあ。モモ。

帰るーー。」

「・・・・・。」

「今度ワ家まで、送るよーー。モモの部屋までーー。」

「ホント？？」

「ああ」

「よかつた。アリガト優ーー！」 2人ワ手を、つなぎながら、

帰つていた。

でも・・・・

「ちょっと、喉かわいたから、

セイジの「ハハビ」にきて来る……」

「ハハ。 まつててな……」

「イヤ。 怖い・。」

「大丈夫!! すぐ前やから、」

「うん。 でも、なんであたしついでっちや、ダメなの??」

「秘密……」

「ええ~??」

「ちやあ1分で、戻るから」

「うん。 数えてまつてる」

「アハハハ」

戻ってきた。

というより、道路はさんだ、

所に・・・！！

優
！
！

「今行く！！」

ヰヰ――イ

アノシシシシシシ

ウツツ

優！

う

ゆう

「じつかりして！！」

ねえ。優死なないで。

誰か、救急車！！！

救急車呼んでください！！！」

ピー・ポー・ピー・ボー

「午後11：42

御臨終です。」

「うそ・・・

うそだよ・・・

ねえ優??

送つてって、くれるんでしょう??

だったら、早く帰ろいっ??

ねえ?優?

帰ろいっよねえ??

なんか、イッテよ。

帰つて来てよ！！

お願い

戻つて来て！！！

優？

ねえ？

なし

図表・・・(前略)

なし

返して・・・

「お願い・・・

彼を返して・・・

あたしから、優を取らないで！！

あたしわ、彼がいないと

生きていけないと

お願い。神様。

あなたが、本当に

存在するのなら、

わたしに、彼を

返してください。

彼ワあたしに、いろんな事を、

教えてくれました。

いろんな事を、

経験させてくれました。

そして何より、

今あたしを、

くれました。

真っ暗の中に、一人でいた、あたしを

光の指す方向に

導いてくれました。

そして、今のわたしを・・・

彼わあたしに

くれました・・・。

でも、あたしわ

なにも優にあげてない。

何も、優に恩返し
できない

だから、これからするから、

彼を返して下さい。

神様。あなたの力なら、

できるでしょ??

だって、ゅうわまだ、

13才なんだよ？？

あたしと一緒にいるんだよ？？

なんで、あたしちゃなくて、

優なの？？

もしかして、

あたしに優しくしたから？？

あたしが、レイプされたのわ

罰でも、認めれるよ。

でも、なんで優まで？？

罰でも、あたしのメ前から、

姿を消すまゝな、

罰つて・・・・・

優が何をしたの？？

罰をうけるのわ

あたしのはず・・・・。

なのに、なんで。

なんですよ・・・・。

お願い。あたしわ

消えてもいい。

そのかわり、優を、

この青く綺麗な、地球に、

返してください。

お願い。神様。

あたしわ、優に沢山の物を

もらつた。

目にわ見えない。

でも、あたしにわ、

見えるの・・・。

そんな人を、とらないで！――！

返して――！

返してよ。

お願い！

彼を、あたしの元に

返してくださいお願いします

”

”

なし

彼がくれたものーー（前書き）

なし

彼がくれたものーー！

今、彼があたしにくれたものわ何〜??そおきかれたら、あたしわ
まず、

いまのあたし。

つて答える。お。

優が、あたしの田の前から

いなくなつて、

もう2年。

あたしわ15才。

あなたわ何て答える???

あれから、2年かあ

時が立つのわ

ビックリする程、

早い時と、遅い時と・・・

両方あるね” ”

でもねえ〜

あたしの中では、

一瞬 時間が止まつてた・・・

ある月曜日とい、

その1ヶ月後と、

それから、火曜日の
午後11：42分。

そお、告白された日と、

優が死んだ時・・・。

あたしの中でワ

時間わ止まつて。

永遠のよおな氣され
した。

でも、そんな訳ない。

この世に永遠なんて

ありえない。

でも確かにあの時、

時は止まつて・・

ねえ？優
あたしは、あなたに

たくさんの

物をもらつたよ。

幸せをくれたね。

優しさをくれたね。

人を信じじる事・

人を愛す事・・・

人に愛される事・・

夜から朝に行く事・

言い出したらきりがないよ。

でも、沢山な事が

沢山あつてそれで今のあたしが

あるんだよ。

優わ腐り切つてた

あたしの事を、

生まれかわらして、くれたんだ。

優わ新しいあたしを

くれたんだ。

優。 ありがとう

優わ最後まで、強かつたね

”

”

でもねえ。

生まれ変わったあたしでも、

挫けたことわあつたんだよ。

沢山挫折したよ。(優？そこそこいるの？？)

なんであたしにわ

優の姿が見えないの？？

ねえ？？優？

そこそこいるの？？

優！！

もじりてきてよ・・・

淋しいよ。

ねえ？

優？

あたし、今どんな顔してる？

笑ってる？？

泣いてる？？

あたしなりに、

優が今、あたしの顔

みたら引くと、思つ

だつて、あなたがいないんだから・・・

こんな事思つてたんだよ。

でもねえ？

それわ過去の事！

優！！聞こえる？？

今、あたしの声が

聞こえてる？？

ねえ？早く帰つて来てね！！

あたしを泣いて来てね！！

もう泣かないよ”

だつて、昔のあたしわ

もういないんだもの。

今は優がくれた

あ
た
し
だ
よ。

あ
り
が
と
う

い
ろ
い
ろ
あ
り
が
と
う
彼
が
く
れ
た
も
の
・
・
・

そ
れ
わ
、

目
に
み
え
な
い
け
ど

心
で
わ
か
る

暖
か
か
つ
た
温
もり
と

そして生まれ変わった、

山川・モモ

だった。

そう彼がくれたもの

それわ

あたし!!

END

彼がくれたものーー（後書き）

皆さん。呼んでくれてありがとうございますーー。あたしが、この物語を書いたのは、恋人の死に負けない彼女を、かきたかったからですーーもし、みんなの近くで、彼氏が死んでしまって、悲しかつたら、この小説を呼んでほしいです。みなさん本当にありがとうございますーー

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4227c/>

～彼がくれたもの～

2010年12月14日15時18分発行